



スマートフォンで
広報たじみを
持ち歩き！

【編集発行】多治見市役所 企画部 秘書広報課
〒507-8703 岐阜県多治見市日ノ出町2丁目15番地
TEL 0572-22-1111 FAX 0572-24-3679
E-mail: hisyoko@city.tajimi.lg.jp
http://www.city.tajimi.lg.jp/



多治見市緊急メールに登録してください
携帯電話に緊急情報を送ります
https://service.sugumail.com/tajimi



▲色によっては、銀彩が重なると黒ずんでしまうので細心の注意を払う。しかし、単一ではないゆるぎのある色の表情も魅力の一つ



▲漆にテレピンオイルを加え伸ばす作業。漆は湿気が多いとすぐに乾燥してしまうため、季節や天候に大きく左右される



▲筆で漆を塗った上から絵具を乗せる作業。漆がのりの役目を果たす。漆は焼成後、燃えて無くなる

SPECIAL TALK ワザ 輝く技術

うるし まき
漆蒔の魅力は
転写では出せない
きれいな発色

徳田吉美さん
陶芸家 (STUDIO Tokuda)



武蔵野美術大学短期大学部で油絵を専攻した私が「陶芸」に出会ったのは、教職課程の授業でした。卒業後しばらくして、洋画家 児島善三郎氏の広大な屋敷にあるアパートに引っ越したのですが、陶芸好きの同氏の息子さんが設置したガス窯を使い、アトリエでやきもの教室を始めると聞いた時、大学の陶芸の授業が楽しかったことを思い出しました。これが、陶芸を始めるきっかけとなりました。

デザイナーの仕事の続けながら、趣味で自分の使う食器などを作りながらも、本格的に陶芸を学びたいと考えようになりました。そんな時、予備校時代からの友人 安藤雅信さん(ギャルリももぐさ)から多治見工業高校専攻科のことを聞き入学を決めました。漆蒔のことはここで初めて知りました。昭和40年ごろまで、多治見には多くの漆蒔上絵職人がいましたが、転写紙の登場で経済効率の悪い漆蒔技法は廃れていきました。私は、転写では出せないきれいな発色を求め試行錯誤し、自分流の漆蒔を完成させることができました。多治見上絵の生き証人で漆蒔職人の安藤洋二さんに「一人でよくここまでやった」と言われた時は涙が出ました。大変面倒で難しい技法ですが、漆蒔の伝統を途絶えさせないためにも若者が興味を持ってくれたらうれしいです。

人口と世帯数の動き

平成30年9月1日現在

総人口

111,197人 (前月比 -36人)

男 54,070人 (前月比 +10人)

女 57,127人 (前月比 -46人)

世帯数

46,423世帯 (前月比 +15世帯)

文化財み～つけた

岐阜県史跡
多治見国長邸跡 新町2



鎌倉時代の武士、多治見国長の屋敷跡とされる史跡です。鎌倉時代末期、政治の中心を朝廷に戻そうと、鎌倉幕府倒幕の気運が高まりました。国長は美濃守護・土岐頼貞の十男頼兼とともに幕府討伐計画に参加しますが、かなわず非業な最期をとげました。